

平成30年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	吉野ヶ里町立東脊振小学校		
2 所在地	神埼郡吉野ヶ里町石動 2760 番地 1		
3 校長名	寛松 清之		
4 学級数 児童生徒数	18 学級 414 人	5 実施学年 児童生徒数	4 年 68 人

6 取組のねらい

身近にあるユニバーサルデザインやみんなが生活しやすいように工夫されていることやものを知り、体験活動等を通して困難さをかかえている人の大変さや思いに気付かせる。学んだことから、相手の立場に立って考えることや自分たちができることは何かを考え、行動できる子供を育てる。

7 取組の実際（写真等を入れ具体的な様子がわかるようにすること）

(1)身の回りにあるユニバーサルデザイン

話を聞いたり、調べ活動をしたりして、自分の身の回りにある品物やまちの中の施設などにあるユニバーサルデザインについて学んだ。

(2)視覚に困難をかかえている方について

目が見えないような状況で、着替えをする、階段を下りる、点字ブロックを使って歩くというブラインドウォークを行った。体験を通して、見えないことの怖さや日頃簡単にできることができない大変さを味わった。

視覚障害の方から話を聞き、目が見えない方の暮らしや盲導犬と接するときの注意などを教わった。実際に盲導犬と触れ合うこともできた。



(3)聴覚に困難をかかえている方について

聴覚障害の方、手話通訳の方から話を聞く。耳が聞こえない方に伝える方法として、手話、指文字、筆談、空文字、読話、などがあることを知り、実際にそのような手段を使ってコミュニケーションを図る様子を見せてもらった。

手話や指文字を学び、自分の名前を伝えたり、歌の歌詞を伝えたりすることができた。



(4) 体に困難をかかえている方について

車いすに乗る方、介助する方、両方の立場で校内をまわる体験をした。少しの段差や斜面で思うように動くことができないこと、介助する側が十分に気を付けないと車いすに乗っている人が怖い思いをすることなどに気付くことができた。また、車いすに乗っている人には腰を落として相手の目線の高さで声をかける、相手がけがをしないように安心してもらうなど、相手の立場に立って接することを学んだ。

(5) 高齢者の方についての学び

地域の「おたっしや本舗(地域包括支援センター)」の方から、認知症についての話を聞き、相手の気持ちを考えること、優しく向き合うこと、伝えなければいけないことははっきり言うことなど対応の仕方を学んだ。

数名の児童は、休日に地域の福祉課が行っている「あたたかい言葉かけ運動」に進んで参加し、学校外の活動でも高齢者の方に触れ合った。

8 取組の成果と課題

多くの体験活動やゲストティーチャーの方の話を聞き、様々な困難をかかえる方の大変さを身をもって感じる事ができた。また、そのような方が生活しやすいように様々な工夫がされていることも知ることができた。

また、まちの中の施設や身近な物にも、誰にとっても分かりやすく使いやすく工夫されたユニバーサルデザインを取り入れられていることも学び、社会科の学習や修学旅行などで校外に出たときに探すことも行った。

困難な状況を体験し、大変さや怖さ、不安な気持ちを味わった子供達は、相手の立場に立って考え、声をかけたり、手助けをしたりすることの大切さに気付き、その立場を体験することで、声かけや手助けがどれほどうれしく、不安を取り除くものかということを知ることができた。そして、自分ができることとして、自分から声をかけたい、困っている方を見かけたら助けたいという思いをもつことができた。

また、総合的な学習の時間で学んだことを新聞にまとめたり、集会で全校へ伝えたりする活動も行うことができた。

課題としては、今年度は、体験活動等でたくさんの気付きを得ることができ、数人は地域の活動に参加したが、より学習したこと積極的に生かす活動としたい。今後は、実際に触れ合う機会を意図的に設けるなど学んだことを生かす場を設け、実践を通して学びをつないでいきたい。